

IV. 放送と青少年に関する委員会

1. 委員会の活動 43
2. 青少年にかかわる視聴者意見の概要 44
《参考》 青少年にかかわる視聴者意見の内訳
3. 「子どもへの影響を配慮した震災報道についての要望」を公表 47
4. 視聴者意見についての審議と、当該局との意見交換 48
5. 「中高生モニター制度」および「中高生モニター会議」について 53
6. 調査・研究およびシンポジウムの実施 55
7. 「青少年へのおすすめ番組」について 56
8. 青少年委員会の見解・提言・要望など 一覧 56

IV. 放送と青少年に関する委員会 [青少年委員会]

1. 委員会の活動

委員会	日 時	主 な 内 容
第121回	2011年 4月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災による3月委員会の中止に伴い、2月から4月までに青少年委員会に寄せられた視聴者意見をもとに審議。 ・深夜バラエティー番組の番組担当者と、制作プロセス等について意見交換。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換。 ・2011年度の調査・研究についての調査票案を了承。
第122回	5月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する視聴者意見をもとに審議。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換。 ・調査・研究についての進捗状況等について報告。
第123回	6月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する視聴者意見をもとにバラエティー1番組を視聴・審議。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換。 ・調査・研究について、NHK、在京民放テレビキー局6社の666人から回答があり、分析作業を行うこと、一般視聴者への調査を行うことを了承。
第124回	7月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する視聴者意見をもとに審議。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換。 ・調査・研究について進捗状況を報告。
第125回	9月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する視聴者意見をもとに、長時間番組の早朝のコーナーについて視聴・審議。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換。 ・調査・研究について、担当委員から番組制作者と一般視聴者の分析結果の概要を報告。
第126回	10月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・前回審議した番組について、当該局の編成・制作責任者と意見交換。 ・青少年に関する視聴者意見をもとに審議。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換。 ・調査結果の報告、2012年2月10日に調査結果報告およびシンポジウムの開催を決定。
第127回	11月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する視聴者意見をもとに審議。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換。 ・シンポジウムのパネルディスカッションの出席者等について了承。
第128回	12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する視聴者意見をもとに審議。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換。

		<ul style="list-style-type: none"> ・2012年度中高生モニター募集要項を了承。 ・調査・研究のシンポジウムを、調査結果の説明とパネルディスカッションの2部構成で行うことを了承。
第129回	2012年 1月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する視聴者意見をもとにバラエティー1番組を視聴・審議。 ・「東日本大震災1年」報道の地震・津波映像の取り扱いについて議論。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換、3月に中高生モニター会議を開催することを決定。
第130回	2月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の映像の取り扱いについて、「子どもへの影響を配慮した震災報道についての要望」を3月2日に公表することを決定。 ・青少年に関する視聴者意見をもとに審議、前回審議したバラエティー1番組について当該局の制作担当者と意見交換。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換、3月18日開催の中高生モニター会議の内容について協議。
第131回	3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生モニター会議終了後、委員会を開催。 ・青少年に関する視聴者意見をもとに審議。 ・中高生モニター報告をもとに意見交換。 ・2012年度青少年委員会の活動計画について意見交換。

2. 青少年にかかわる視聴者意見の概要

2011年度の青少年に関する意見は1,638件で、2010年度に比べ75件増加した。アクセス方法ではEメールの比率が78.2%と最も多く、性別では男性58.9%・女性40.1%である。年代別では30歳代が最も多く33.4%、次に40歳代の23.4%と続いている。10歳代からの意見は6.7%で、昨年8%から微減となった。Eメールが2009年度の67.1%、2010年度の73%に比べて増加したほか、2010年度の35%から女性の比重が増え、特に20～40歳代にかけての女性からの意見が増加している。

意見の分類では、「低俗・モラルに反する」との意見が494件(前年度477件)、「性的表現」に関する意見が223件(同214件)、「視聴者意見への反論・同意」が164件(同151件)と、上位の意見の件数に大きな変動はなかったが、「CM」に関する意見が210件(同108件)と増加した。これは、女性アイドルグループのメンバーが菓子を口移ししていくCMに意見が集中したことによる。

意見の内容では、バラエティー番組や深夜アニメの表現・演出に関する意見が寄せられている。深夜・早朝時間帯であっても、性的表現や殺人・残虐シーンなどについて、「子どもの目に触れる可能性があるので配慮してほしい」との意見が多く、ドラマに関しては、夕方の再放送について、同様に「子どもの目に触れるので配慮すべき」との意見が寄せられている。

《参 考》

青少年にかかわる視聴者意見の内訳

1,638件（2011年4月1日～2012年3月31日）

<アクセス方法>

方 法	件 数	比 率
Eメール	1,281	78.2%
電話	326	19.9%
FAX	13	0.8%
郵送	18	1.1%
合 計	1,638	100%

<性 別>

性 別	件 数	比 率
男 性	964	58.9%
女 性	657	40.1%
不 明	17	1.0%
合 計	1,638	100%

<年代別件数>

年 代	男 性	女 性	不 明	合 計	比 率
10歳代	88	22	0	110	6.7%
20歳代	222	132	0	354	21.6%
30歳代	302	245	0	547	33.4%
40歳代	221	163	0	384	23.4%
50歳代	77	49	0	126	7.7%
60歳代	30	33	0	63	3.9%
70歳代以上	14	5	0	19	1.2%
不 明	10	8	17	35	2.1%
合 計	964	657	17	1,638	100%

<月別件数>

月	男 性	女 性	不 明	合 計
2011年4月	71	39	1	111
5月	61	45	0	106
6月	66	63	2	131
7月	117	61	2	180
8月	85	47	0	132
9月	89	54	0	143
10月	76	50	3	129
11月	77	47	2	126
12月	52	28	0	80
2012年1月	121	68	3	192
2月	60	48	1	109
3月	89	107	3	199
合 計	964	657	17	1,638

<2011年度分類>

内 容	特定番組または局	放送全般	合 計
低俗、モラルに反する	424	70	494
性的表現に関する意見	192	31	223
CMに関する意見	109	101	210
視聴者意見への反論・同意	18	146	164
いじめ・虐待に関する意見	151	11	162
暴力・殺人・残虐シーンに関する意見	83	10	93
表現・演出に関する意見	34	8	42
言葉に関する意見	19	17	36
要望・提言	8	24	32
報道・情報に関する意見	13	14	27
危険行為に関する意見	18	3	21
犯罪の助長に関する意見	16	3	19
差別・偏見に関する意見	16	0	16
編成に関する意見	11	2	13
動物に関する意見	11	0	11
非科学的な事柄に関する意見	9	0	9
人権に関する意見	8	0	8
推奨番組に関する意見	7	0	7
喫煙に関する意見	5	0	5
マナー・服装に関する意見	2	3	5
食べ物に関する意見	4	0	4
その他	15	22	37
合 計	1,173	465	1,638

注：BPO全体に寄せられた視聴者意見のうち、青少年への影響などに言及している意見を青少年委員会あてとし、意見の内容に準じて上記項目に分類・累積した。

<青少年委員会に意見が10件以上あった番組>

番 組	放送局	件 数
FNS27時間テレビ	フジテレビ	58
爆笑 大日本アカン警察	フジテレビ	41
とんねるずのみなさんのおかげでした！	フジテレビ	39
めちゃ×2イケてるッ！	フジテレビ	33
痛快！ビッグダディ	テレビ朝日	22
あにてれ「銀魂」	テレビ東京	19
ピラメキーン	テレビ東京	19

笑っていいとも！	フジテレビ	17
ザ・ベストハウス123	フジテレビ	15
ハガネの女	テレビ朝日	14
スター☆ドラフト会議	日本テレビ	13
とくダネ！	フジテレビ	12
名前をなくした女神	フジテレビ	12
フジテレビからの！	フジテレビ	10

3. 「子どもへの影響を配慮した震災報道についての要望」を公表

第129回委員会(2012年1月24日)で、東日本大震災から1年を迎え、各放送局で特別番組等の編成が計画されていることに関して、委員から、「地震や津波の画像は、PTSDを引き起こし、子どもに負の影響を与える可能性があるので、映像使用の配慮や視聴者への注意喚起を呼びかけるべき」との提起があり、議論を重ね、第130回委員会(2月28日)で、各放送局の自主・自律性を最大限尊重したうえで、震災報道における子どもたちへのストレスに十分配慮することについて、「要望」を発表することとした。

[3月2日公表]

2012年3月2日

子どもへの影響を配慮した震災報道についての要望

放送倫理・番組向上機構[BPO]

放送と青少年に関する委員会

2011年3月11日に発災した東日本大震災後、各局が24時間体制で伝えた震災報道は、国民の知る権利に応えるとともに、被災者支援にも大きな力を発揮しました。また起こりうる災害に備えるためにも、今後、この事実を伝え続けるためにも、報道はますます重要になるものと思われれます。

私たちは、真実を伝える報道の重要性を尊重しつつも、その一方で、子どもたちの震災ストレスに十分注意し、適切なケアを行う必要があると考えています。震災以後、青少年委員会にも震災報道を視聴することによるストレスについて多くの意見が寄せられてきました。

こうしたことを踏まえ、東日本大震災から間もなく1年を迎えようとする今、青少年委員会では各放送局の自主・自律性を最大限に尊重した上で、以下の3点をお願いすることにいたしました。

1. 震災関連番組内で、映像がもたらすストレスへの注意喚起を望みます。

青少年委員会は、各局が映像によるストレスへの配慮をしながら震災関連番組を制作してきたことを評価するものです。また、注意喚起を行ってきた番組の存在も十分に承知しております。今後放送される番組内でも、映像によるストレスについての注意喚起が引き続き行われていくことを望みます。

2. 注意喚起は、震災ストレスに関する知識を保護者たちが共有できるように、わかりやすく丁寧なものとするのを望みます。

注意喚起は、子どもたちを映像によるストレスから守る立場の保護者に向けたメッセージと

して効力のあるものでなくてはならないと考えます。番組内で行われる注意喚起のあり方と内容について、各局でさらに十分に協議し、放送されることを望みます。

震災ストレスに対する啓発のための番組の制作、および情報番組や報道番組内での詳しい解説による保護者たちへの情報提供についてもご検討いただけると幸いです。

3. 特にスポットでの映像の使用には十分な配慮を望みます。

番組宣伝のためのスポットは、予告なく目に飛び込んでくること、前後の脈絡がない中で映像が切り取られて使用されることなど、受ける衝撃は通常の番組よりも強いものとなることが懸念されます。震災関連番組のスポットで使用する映像に関しては、子どもたちへのストレスを増長する危険性の有無について協議した上で、十分な配慮を望みます。

本委員会では、2002年3月15日に、前年の大阪の児童殺傷事件やアメリカの同時多発テロ報道を契機とした議論をもとに、「『衝撃的な事件・事故報道の子どもへの配慮』についての提言」を発表しました。提言では「テレビ報道が『事実』を伝えるのは、国民の『知る権利』に応えることであり、民主主義社会の発展には欠かせないものである。その伝える内容が暗いものであったり、時にはショッキングな映像であったとしても、『真実』を伝えるために必要であると判断した場合には、それを放送するのはジャーナリズムとして当然である。子どもにとってもニュース・報道番組を視聴することは市民社会の一員として成長していく上で欠かせない。」としています。その上で、子どもをPTSD(心的外傷後ストレス障害)等の心理的ストレスから守るため「刺激的な映像の使用への注意」「『繰り返し』効果をもたらす影響への検討」を求めました。

本委員会は同提言を踏まえ、東日本大震災の報道により、PTSD等子どもたちの被害を拡大させないために、あらためて各放送局に要望することにいたしました。

<参考資料>

- ・BPO青少年委員会「『衝撃的な事件・事故報道の子どもへの配慮』についての提言」 2002. 3. 15
- ・民放連・放送基準審議会「『番組情報の事前表示』に関する考え方について」 2001. 7. 19

以上

4. 視聴者意見についての審議と、当該局との意見交換

2011年度、青少年委員会は、視聴者意見をもとに4番組について審議した。そのうちの3番組について、番組の企画意図、視聴者意見の受け止め方などをめぐって、放送局の担当者との意見交換を行った。

《審議》

● フジテレビ『メチャ2イケてるッ!』(6月4日放送)

[第123回委員会(6月28日)]

男性タレントが女性出演者に襲いかかったりした行為について批判意見が寄せられ、番組を視聴のうえ、審議した。放送は、過激な芸風で売る男性タレントが震災後いち早く福島の被災地に救援物資を届けたことを番組内で暴露し賞賛したことを受け、その男性タレントが自身のキャラクターを守るために暴走するという内容であった。

審議の結果、委員会としては特段問題視することはないとしたうえで、委員の意見を『BPO報告』等に掲載することとした。

【委員の主な意見】

- ・キャラクターがわかっている人には容認できる行為も、初めて見た人、特に子を持つ母親からしたら「何あれ」と思い、非常に不愉快に感じるのではないか。
- ・出演したタレントのキャラクターは多少ひどいことをしても、ひどいという印象が残らない。今回も、視聴者がいやらしいなどの感情は持たないという気がする。ただ、カメラアングルや編集にもう一工夫できたのではないか。

《審議、当該局との意見交換》

● TBS『さしこのくせに』（2011年2月8日放送）〔第121回委員会（4月26日）〕

青少年に人気のあるアイドルグループのメンバーが出演するバラエティ番組について、「番組がスポンサーの運営する有料サイトに誘導する内容になっており、ファン心理に付け込んだ悪質なやり方」などの意見が寄せられ、番組を視聴のうえ、審議した結果、当該番組の制作プロセスなどについて、番組担当者の説明を受けることとした。

〔東日本大震災の影響により2010年度3月委員会を休止したため、2011年度4月の委員会で意見交換を行った〕

【委員の主な意見】

- ・番組上、課金表示がないのは問題だが、あったとしても、番組の構成自体が誘導的で、放送倫理上許されるだろうか。
- ・この企画自体がどこから生まれたのか。また、番組制作とサイトを運営するスポンサーとの関連の有無があるのか知りたい。

【4月委員会にTBSから提出された経緯書】

<番組内容と今回の経緯>

この番組はAKB48のメンバーの一人が毎回様々なチャレンジをし、視聴者がモバイルを使ってそれを評価する、という、いわばファンとの双方向性をコンセプトとしたバラエティ番組です。提供はモバイルコンテンツ事業会社で、制作は外部制作会社が請け負っています。

2月8日に放送された「番組存続をかけた投票」という企画は、スポンサーの代表者自らが出演し、主役のタレントに対し、「携帯サイトでファン投票を実施し、3月いっぱい3万票が集まらなければ番組打ち切りを考える」と告げるものでした。

代理店を通し事前にこの企画を提案された弊社編成担当は、TBS運営の無料の携帯サイトで毎週行っている通常ファン投票の延長と理解いたしました。またスポンサーが番組に登場するという点についても、スポンサーが、番組内でタレントの活躍を審議するメンバーの一員に由来から加わっていることもあり、演出の範囲内であろう、と判断しました。

しかしながら、実際にはこの投票の場がスポンサーの運営する有料携帯サイト上であったため、投票しようとした視聴者にはサイト登録料などが必要となっておりました。

弊社側としましては、結果として、オンエア後に投票が有料であったことを知るようになりますが、投票のやりかたやシステムについて、局側の担当として代理店その他関係者と事前にすべき精査を怠っていたことは否定できず、大いに反省するところであります。

<番組の企画・放送の経緯>

モバイルビジネスを展開するスポンサーから広告代理店を通じて、若者にも人気のあるAKB48のメンバーをフィーチャーしたサイト連動型の番組企画が営業を通じて持ち込まれ、担当

部署である編成が精査した結果、将来的にも期待できると判断し成立に至った。問題とされた点については、広告代理店から放送側への連絡ミスがあり、事前チェックが不十分なままオンエアしたことが原因だった。

<反省点と事後の対応>

ネット・モバイル連動型については放送の外で、放送事業者が知りえない事象が起こることについての危機意識を持ち、番組の細部にわたって留意することが求められており、事後、スポンサー、代理店、営業、制作会社、編成等関係者による数度の会議が設けられ、意識とコミュニケーションの共有化を図るとともに、今回の事案の経緯をまとめ、他の類似番組についても再発を防止すべく体制を整えた。

<ネット系メディアと放送の現状>

各放送事業者は放送波と各メディアとを連動することにより、放送事業収入以外の何らかの利益を上げていることを考えている。TBSも有料、無料のサイトを立ち上げ、各権利所有者等と協議しながら、責任の持てる範囲で一つずつ立ち上げている。テレビは大きなメディアなので各企業から様々な要望が寄せられるが、特に放送内容と関係することについては、情報の行く先が詳らかには見えず、100%責任が持てないことから、外部へのリンク等に関してはガイドラインを設け、基本的には禁止し危険を回避するよう努めている。

【意見交換を受けて、青少年委員会としての所感】

各放送事業者は、放送収入の停滞、低迷という現在の経済状況と、インターネットなど新たなメディア環境の急激な発達の中、その必然として(ビジネスの一形態として)、各メディア連動型の番組が制作・放送される状況にある。番組制作者も、ネット系連動番組はまだ緒についたばかりで模索段階にあることが推察され、放送された情報がネット連動により、伝達先でどういうことが起りうるのかということについての認識も十分とはいえない。また、放送倫理上の問題認識については、放送事業者とスポンサー、代理店等関係者とで同一であるとは限らない。

当委員会としては今後、ネット連動型の新たな分野の番組制作にあたっては、放送事業者が以上の点について十分に留意を払い、関係者相互のコミュニケーションと共通認識を図ること、そのための社内システムの検討とともに、関係各社と認識を共有する努力を期待したいと考える。

● フジテレビ『FNS27時間テレビ』(7月23日～24日放送)

[第125回委員会(9月27日)]

7月24日未明から早朝にかけて放送された、女性の下半身にハケ状の物を回転させる、いわゆる“ハケ水車”企画について、視聴者から「卑猥な描写や言動で、夏休み中の子どもには見せられない」等の意見が寄せられ、番組を視聴のうえ、審議した結果、番組の制作プロセスや企画意図等について、委員会で制作担当者等当該局からの説明を受け、概要を『BPO報告』等に掲載することとした。

【委員の主な意見】

- ・『FNS27時間テレビ』は、フジテレビ系列のステーションイメージを高める番組であったはず。今年は被災地復興をテーマに掲げていたはずなのに、こういう企画が

放送されることは理解に苦しむ。

- ・視聴者は、早朝の時間帯にこのような放送を流すことに強い憤りを持っている。夏休みで青少年が見ている可能性が高いという倫理的問題等を自覚しているのか、問いたい。
- ・一般的に番組が男性の大人の目線で作られていて、制作者に女性や子どもの視点が欠けていることから、今回のような番組が制作されることになる。

【10月委員会にフジテレビから示された意見の概要】

<FNS27時間テレビについて>

フジテレビ及びフジネットワークの総力を挙げ、視聴者に面白さや感動を与え、一緒に楽しむ、テレビのパワーをアピールする年に一度のお祭り番組。今年は被災地を元気にしようというメッセージと、完全デジタル化によるテレビ新時代の幕開けという2つのテーマを柱に制作・放送した。例年この番組は“笑い”を一番大切なものとして全面に置いているが、3月の震災を受け、企画段階で果たして“笑い”を主眼にした番組ができるのか、またこの番組自体が今年は放送できるのか大いに悩んだ。しかし被災地の東北3県に赴いた際、多くの方から「自分たちは笑いたい。笑わせてほしい」「お涙ちょうだい番組にはしないでほしい」という言葉をいただき、フジテレビらしい面白い番組にしなければいけないと決意し制作した。結果として明るく楽しい、全編笑いに満ち溢れた番組になったと思う。

<“ハケ水車”企画について>

この企画は1993年に放送されていたものだが、アナログテレビの最後の日として、出演者たちの青春時代の、もっともアナログ的なコーナーの象徴としてこの企画を選んだ。当時も物議を醸していた企画だけに、見せ方に配慮し、肌を一切露出しないというルールを作り、女性はヘルメットをかぶり、レーシングスーツを着て手袋をすること、また言葉の表現も、レースになぞらえることで笑いにつながり、直接的な生々しい表現を避けるよう考慮した。

<放送時間について>

視聴者数が一番少ない時間を選ぶ配慮とともに、番組が始まってちょうど折り返し地点で、出演者たちの疲労がピークになるところを、大きな声で頑張れるコーナーにすること。また過激なコーナーをレースになぞらえ、そのすぐ後に放送される本当のF-1レースという健全なモータースポーツにつなげることで、そのギャップの面白さを演出すること。また、司会の今田耕司はあの直後、被災地に感動を与えるため宮城・南三陸町に出発したが、東京のスタジオではお笑い芸人として、あえて過激な仕事をするのでそのギャップを演出するため等、複合的な理由であの時間を選んだ。

<反省点>

“ハケ水車”自体が面白いと思っているわけではない。今田耕司など当時の出演者は知っているが、若手芸人にとっては伝説のようなコーナーであり、その両者のコミュニケーションやリアクションなどを面白く笑いにつなげようと思っていたが、演出が狙い通りにいかず、視聴者に笑いが届かなかった部分もあったのは、残念でならない。また放送時間については、この時間帯を1日の始まりというより、深夜の続きと捉えてしまい、早朝であり、子どもたちが起きてくる可能性が有る時間という意識が浅かったことについて大変反省している。

<事後の対応>

お色気ネタは笑いのジャンルの一つではある。しかし今回の視聴者意見等を受け、編成制作局内で協議した結果、番組制作にあたっては放送時間等を含め、女性や子どもたちに十分配慮すること及び、今後、下品で直接的な下ネタは避けることを再確認し、バラエティ制作の全プロデューサー、全編成部に徹底した。

● フジテレビ『ザ・ベストハウス123』（2012年1月11日放送）

〔第129・130回委員会(2012年1月24日・2月28日)〕

「浮気現場に突撃！ 男と女の修羅場最凶衝撃映像20連発」という企画について、視聴者から、「20時台に卑猥な映像が放送され、子どもに不適切」等の意見が寄せられた。

第129回委員会(2012年1月24日)で、番組を視聴のうえ、審議した結果、番組制作担当者との意見交換を行い、概要を公表することとした。

【委員の主な意見】

- ・アメリカでは、14歳以下は見ないようにと、指定されている番組であるはず。そのことを認識したうえで制作にあたったのか。
- ・短時間の放送なら視聴者の嫌悪感も違ったかもしれないが、長時間にわたって20本ものストーリーを見せられると、うんざりする。
- ・興味深い企画を分断する形で、この企画が挿入されている。その企画を見たいと思って見ている視聴者は、間に性的な映像を見せられ、不快に思うはず。

【2月委員会にフジテレビから示された意見の概要】

<番組コンセプト>

映像凶鑑を作るという趣旨でスタートした。6年近くやっていく中で変遷し、海外の感動的なエピソード、衝撃映像、また、国内のドキュメンタリーを買ったり、番組で映像を撮って見せるということも含め、スタイルが確立してきた。

アメリカでは今、「リアリティーショー」というジャンルの番組が非常に人気があり、今回の「チーターズ」という番組は、これまでに250回以上放送されているアメリカでも認知されている人気シリーズ。番組として紹介できるということと、アメリカの国民性が出ており、人間は追い込まれた時に本性が出たり、滑稽だったり不思議な行動を起こすということがバラエティーの面白い要素としてあった。具体的には、言い訳のできない状況に置かれた男女がどう言い訳をするのか、どう逃げるのか、どう追い込まれるのか、そこも面白さだと思って作った。

<放送にあたっての留意点>

アメリカでこの番組がTV-14(親に強く警告。14歳未満の子どもに好ましくない番組)という指定があるという認識はあったので、スタッフ間で協議し、素材をそのまま放送するのではなく、直接的なシーンはカットし、問題があると考えられるシーンは強く大きいモザイクをかけることで、何が行われているか判らないように編集する等、放送上の配慮をし、地上波のこの時間かけられる番組にするよう留意した。

<視聴者意見を受けて>

番組を作る基準として、自分の子どもと一緒に見られないものは作らない、ということが大前提としてやっている。子どもと一緒に見られるところまで映像等の配慮をし、処理したと思

ったが、やはり抵抗を感じたり不快に感じる方が多かったということは、自分のハードルが低すぎ、世の中に対してはもっとハードルを高くしなければいけない、より注意しなければいけないということを痛感した。また性的なシーンの無い、モザイク無しでも放送できるエピソードもあったので、特に午後7時から9時までの子どもに配慮する時間帯についてはもっと精査すれば良かったと番組スタッフとも話し、認識をあらためて番組作りに臨むことにした。

この番組には面白かったというご意見もいただいております、今後は時間帯等を意識しながら、新しいソフトである「チーターズ」という番組をどうしたら視聴者に不快な感じを与えずに楽しんで見ていただけるか、工夫をすることが我々の仕事ではないかと思っている。

5. 「中高生モニター制度」および「中高生モニター会議」について

青少年委員会では、子どもたちのテレビやラジオに関する声を直接聞く場として、2006年度から「中学生モニター」制度、2010年度からは中学生に高校2年生までを加えた「中高生モニター」制度を実施している。2011年度は、中学生22人・高校生12人の計34人にモニターを委嘱した。1年間を「バラエティー・クイズ・音楽番組」「報道・情報・ドキュメンタリー番組」「ドラマ・アニメ番組」の3つのジャンルに分けて、月に1度リポートを書いてもらい、着眼点が優れたリポートを「今月のキラ★報告」として委員が選定しコメントを付けた。4月と8月は、東日本大震災に関連した報道・情報番組についてのリポートを求めた。

2011年度のモニター報告は342通で、各ジャンルの最終月に提出された企画提案について、NHK、在京民放キー5局の現場の担当者25人に送り、講評を受けた。

青少年委員と中高生モニターが直接話し合う「中高生モニター会議」を2012年3月18日に東京で開催し、20人の中高生が参加した。参加した中高生モニターと委員は、年間を通じた3つのジャンルにグループ分けして、「私の見たい、作りたいテレビ」の企画書づくりをした。〔中高生モニター報告、「今月のキラ★報告」等は『BPO報告』に掲載。〕
〔中高生モニター会議〕は5月に別冊資料を作成した〕

【2011年度「中高生モニター」報告(34人)】

月	ジャンル	概要
2011年 4月	東日本大震災関連 の報道・情報番組	4～7月は「バラエティー・クイズ・音楽番組」を取り上げる予定だったが、東日本大震災が発生したため、新モニターに大震災関連の「報道・情報番組」の意見や感想を求め、34人全員から報告が寄せられた。 被災した宮城県の高校2年生男子と茨城県の中学2年生女子のリポートを、『BPO報告』、ホームページに掲載した。
5月	バラエティー・ クイズ・音楽番組	「バラエティー・クイズ・音楽番組」の「好きな番組、面白い番組」を選び、「その理由や好感の持てるタレント・出演者」について意見を求め、32人から報告があった。複数回答のあった番組は、『しゃべくり007』『AKBINGO!』（日本テレビ）、『ホンマでっか!?TV』（フジテレビ）、『シルシルミシル(さんでー)』（テレビ朝日）、『水曜どうでしょう』（北海道テレビ放送）の5番組だった。 「今月のキラ★報告」は、日本テレビの『ザ!鉄腕!DASH!!』に意見を述べた、東京都の中学2年生男子のリポートが選ばれた。

6月	バラエティー・クイズ・音楽番組	<p>「面白くない番組、嫌いな番組」を選び、「その理由や好感の持てない出演者・タレント」について、32人から報告が寄せられた。『行列のできる法律相談所』（日本テレビ）に9人、『クイズ！ヘキサゴンII』（フジテレビ）に7人の意見が寄せられ、昨年と極めて似通った結果となった（去年は『クイズ！ヘキサゴンII』12人、『行列のできる法律相談所』4人）。</p> <p>「今月のキラ★報告」は、日本テレビの『24時間テレビ』について意見を寄せた、神奈川県の中3年生女子が選ばれた。</p>
7月	バラエティー・クイズ・音楽番組	<p>「バラエティー・クイズ・音楽番組」の最終月で、「見たい番組、作りたい番組」の企画書が31人から届いた。内訳は、バラエティー番組18、クイズ番組3、音楽番組10だった。</p> <p>NHKと在京民放テレビ5局の現場の担当者から7番組の講評と、全体講評が寄せられた。</p>
8月	大震災、原発事故関連の特集番組もしくは通常番組	<p>東日本大震災関連番組モニターを依頼し、26人からレポートが届いた。フジテレビの『金曜特集わすれないうち〜東日本大震災155日の記録〜』を最多の7人が取り上げた。</p> <p>「今月のキラ★報告」は、仙台放送の震災関連のキャンペーン番組『ともに』について報告した、宮城県の高2年生男子のレポートが選ばれた。</p>
9月	報道・情報・ドキュメンタリー番組	<p>9～11月は「報道・情報・ドキュメンタリー番組」を取り上げた。9月は「いつも見ている面白い番組」についての意見を求め、29人から報告が届いた。複数回答のあった番組は、テレビ朝日の『報道ステーション』、フジテレビの『めざましテレビ』など5番組だった。</p> <p>「今月のキラ★報告」は、原発事故から25年たったチェルノブイリを取り上げたNHKの『BS世界のドキュメンタリー』について述べた、東京都の高2年生女子のレポートが選ばれた。</p>
10月	報道・情報・ドキュメンタリー番組	<p>最近特に注目した国内外の「ニュース・報道」についての意見を求め、27人から報告が届いた。複数意見のあった項目は、東日本大震災関連、島田紳助さん引退、小沢一郎元民主党代表の公判開始、韓流ブームなどの報道だった。</p> <p>「今月のキラ★報告」は、東京・世田谷区で高濃度の放射性物質が見つかった報道について意見を寄せた、東京都の中2年生男子のレポートが選ばれた。</p>
11月	報道・情報・ドキュメンタリー番組	<p>「報道・情報・ドキュメンタリー番組」の最終月で、27人から企画書が届いた。中高生の知りたい情報が少ない、難しい情報をわかりやすく解説する番組が少ない、中高生が参加できる番組が少ないので、そういう番組を作りたいという企画が多かった。</p> <p>NHKと在京民放テレビ局の担当者から個別の講評、全体講評が寄せられた。</p>

12月	ドラマ・アニメ番組	<p>12～2月は「ドラマ・アニメ番組」を取り上げた。12月は「好きな番組、面白い番組」について、27人から報告が届いた。ドラマでは日本テレビの『家政婦のミタ』が5人、アニメでは8人から8番組の報告が寄せられた。</p> <p>「今月のキラ★報告」は、中部日本放送などが製作した『Angel Beats!』が大好きという、愛知県の中学3年生女子のリポートが選ばれた。</p>
2012年1月	ドラマ・アニメ番組	<p>面白そうと思って見たドラマ・アニメの中から「期待はずれだった番組」「つまらなかった番組」について感想や意見を求め、27人から報告が届いた。ドラマには21人が17番組(重複あり)、アニメには5人から4番組についての報告があった。マンガや小説をドラマ・アニメ化した作品に、二番煎じ、オリジナリティーがないという意見が多かった。</p> <p>「今月のキラ★報告」は、テレビ東京のアニメ『ゆるゆり』を取り上げた、神奈川県の高校1年生女子のリポートが選ばれた。</p>
2月	ドラマ・アニメ番組	<p>「ドラマ・アニメ番組」の最終月は、中高生モニターが「見たい、作りたいドラマ・アニメ」の企画書を作ってもらい、23人から報告が届いた。ドラマの企画は13人(重複あり)で、大半がオリジナル作品、原作のある企画は3人からだった。アニメの企画は8人(重複あり)。アニメはオリジナルとゲームソフトを原案とする企画が2人ずつから寄せられた。</p> <p>NHKと在京民放テレビ局の担当者から講評を受けた。</p>
3月	中高生モニターを体験して	<p>1年間の中高生モニターの体験から「今のテレビやラジオについて思ったこと、感じたこと」についての感想が、26人から届いた。意見の特徴は、「他のモニターの報告を読んで、さまざまなテレビの見方があることがよくわかった」「家族や友人と放送について話し合うことが増えた」というもの。他の感想は、「現在の中高生はさまざまなツールでテレビを見ている。東日本大震災を契機に何が本当の情報なのか大いに疑問を感じた。信用されるマスコミになってほしい」等の注文だった。</p>

6. 調査・研究およびシンポジウムの実施

NHKおよび在京民放テレビキー局のドラマ・バラエティ制作者を対象に、意識調査を実施した。全対象者の82%にあたる666人からの回答をもとに分析を行い、並行して実施した一般視聴者調査(回答752人)との比較等を、2012年2月に『“新時代テレビ”～いま、ドラマ・バラエティ制作者666人は～』報告書としてまとめた。なお、この東京のNHK・民放テレビキー局の番組制作者に行った調査に「東日本大震災報道に関する調査」を組み入れ、415人から自由記述式の回答を得、これを委員の解説とあわせて、同報告書に盛り込んだ。青少年委員会の調査・研究は4回目。

さらに、その調査結果をもとに2012年2月10日、青少年委員会の公開シンポジウム「“新時代テレビ”～いま、制作者たちへ～」を東京で開催し、約150人が参加した。シンポジウムでは、調査結果の報告とともにパネルディスカッションを行い、その模様を『“新時代テレビ”いま、制作者たちへ』として5月に発行した。

7. 「青少年へのおすすめ番組」について

青少年委員会では2010年4月から、良質なテレビ番組を青少年に紹介するため、BPO構成員のテレビ各社から、自社の「青少年へのおすすめ番組」の推奨を受けている。

番組は、放送の前月末に放送日・放送時間・内容等をBPOホームページに掲載する。

2011年度は、合計460番組を紹介した。

2011年度「青少年へのおすすめ番組」

注：番組ジャンルは青少年委員会事務局が区分

	音楽・バラエティー系	ドラマ系	報道・教養系	スポーツ系	ドキュメンタリー系	その他	合計
2011年4月	東日本大震災のため掲載中止						
5月	5	1	17	3	11	1	38
6月	4	-	12	13	7	2	38
7月	7	1	14	10	4	2	38
8月	8	2	18	6	7	6	47
9月	13	-	7	8	10	2	40
10月	9	1	5	12	3	7	37
11月	14	-	7	12	7	5	45
12月	9	-	9	5	11	4	38
2012年1月	10	3	13	6	10	2	44
2月	11	2	7	8	5	13	46
3月	7	3	12	6	13	8	49
合計	97	13	121	89	88	52	460

8. 青少年委員会の見解・提言・要望など 一覧

- ① バラエティー系番組に対する見解 [2000年11月29日]
- ② 「衝撃的な事件・事故報道の子どもへの配慮」についての提言 [2002年3月15日]
- ③ 法によるメディア規制に反対し、放送界の自律強化を求める声明
[2002年6月19日]
- ④ 消費者金融CMに関する見解 [2002年12月20日]
- ⑤ 「子ども向け番組」についての提言 [2004年3月19日]
- ⑥ 「血液型を扱う番組」に対する要望 [2004年12月8日]
- ⑦ 「児童殺傷事件等の報道」についての要望 [2005年12月19日]
- ⑧ 少女を性的対象視する番組に関する要望 [2006年10月26日]
- ⑨ 「出演者の心身に加えられる暴力」に関する見解 [2007年10月23日]
- ⑩ 青少年委員会からの注意喚起「児童の裸、特に男児の性器を写すことについて」
[2008年4月11日]
- ⑪ 青少年への影響を考慮した薬物問題報道についての要望 [2009年11月2日]
- ⑫ 子どもへの影響を配慮した震災報道についての要望 [2012年3月2日]